



第59回日本産科婦人科学会総会・学術講演会
ランチョンセミナー9

婦人科臨床におけるPET活用のノウハウ — PET診断のコツとピットフォール — 放射線科医の立場から、婦人科医の立場から

2007年4月15日(日) 12時00分～13時00分
国立京都国際会館 第1会場 Main Hall

座長

清水 敬生 先生

国際医療福祉大学 教授

国際医療福祉大学三田病院 女性腫瘍センター センター長

演者

村上 康二 先生

獨協医科大学病院 PETセンター長 教授

蝦名 康彦 先生

北海道大学大学院医学研究科 生殖・発達医学講座

生殖内分泌腫瘍学分野

婦人科臨床におけるPET活用のノウハウ

— PET診断のコツとピットフォール —

放射線科医の立場から、婦人科医の立場から

国際医療福祉大学 教授

国際医療福祉大学三田病院 女性腫瘍センター センター長

清水 敬生

座長からの一言

本講演会は、昨年ようやく婦人科腫瘍にも保険適用となったFDG-PET検査の勉強会です。この会に参加していただければ、PETの解説書の行間のノウハウを修得でき、明日からの臨床に直ちに役立つものと思われまます。婦人科腫瘍の専門の先生方は勿論、専門外の先生方も、短時間で検査の概要を修得出来ますので、是非とも参加していただきたく存じます。

緒言

近年、FDG-PETによる癌診療が注目され、婦人科癌についても有用性が認められつつあります。欧米では、癌と診断された場合、“PET first”で、初回診断における有用性がひろく認識されていますが、現在の日本の実情は、“PET last”で、この分野では遅れをとっています。

さて、FDG-PET検査は、2002年に腫瘍を中心とした12疾患に保険適用となり、2005年にデリバリーによる医薬品FDGの供給が開始され、急速に普及しました。現在国内の約200施設でPET検査が行われ、各科領域の癌診療で有用性が認められています。

2006年4月には、子宮癌・卵巣癌への保険適用が追加されました。婦人科腫瘍領域では再発診断を中心に、病期診断、治療効果判定や検診まで幅広く検査が行われており、最近では、PETとCTが一体となったPET/CT装置の普及によりその診断精度が格段に向上しています。このような背景をもとに、この度、PET検査の中で最も使用頻度の高く、今後日常臨床に欠かせないものとなるであろうFDGを用いたPET検査について、この領域のエキスパートから、分りやすく解説していただきます。

まず放射線科医の立場から、我国におけるPET診断のpioneerである獨協医科大学の村上康二教授が、婦人科医が知っておかなければならない基礎知識やpitfallについて専門家の立場から概説されます。後半は婦人科医の立場として、北海道大学の蝦名康彦先生から、実地臨床におけるPET検査の有用性（再発の早期診断、初回治療前の病期診断、治療効果判定、等）について、症例を提示した上で、実践に即した講演をしていただきます。

婦人科腫瘍に携わる医師にとって欠くことのできなくなったPET検査について、本ランチョンセミナーでそのノウハウを修得していただき、明日からの日常診療に役立てていただければ幸いです。